

特別研修

月例研究会 議事録 (12 月)

2008 年度第 6 回

報告題名 数字で見る中国の農業問題	
報告者 張 雅青 (チョウ ガセイ) (所属分野) 経営情報学	日時 12月18日 15時から17時
座長 小山田	場所 第八講義室
	議事録担当者 池田
出席者 米倉、冬木、川島、工藤、伊藤、長谷部、木谷、石井、大村、佐藤章夫、澁谷、小山田、張、池田、飯塚、田口、松井、スチン、祖、八木、柳瀬、神浦、野村、福田、水木	
報告要旨 中国は2001年WTO加盟を果たしたが、海外からの農産物輸入の拡大により、競争力が弱い国内農業に生産の縮小や失業者の増加など負の影響を与えている。さらに、人民元の切り上げによって農業の国際競争力が弱まり、農民の所得向上は抑制され、失業者が増えるなど新たな問題が生じている。現在、中国政府も農業振興策に力を入れているが、そのための農業政策の遂行にあたっては、WTOのルールとの整合性や為替レートの問題、さらにそれらに規定される中国の農業財政の問題が大きく横たわっている。 本報告は、現在、中国は抱える農業問題の焦点となる農産物供給(不足)の問題ではなく、農業所得(不足)の問題を検討し、食糧消費が飽和水準に達している中国の農産物の品質向上や加工度を高めることによる販売価格の引き上げと、生産コスト・流通コストの引き下げによる収益性の改善、あるいは輸出振興などに重点が置かれる課題を解釈するため、これからの研究計画及び方法について、報告したい。	

質疑・応答

小山田：農業を改革していくのは農業をやっている人の生活が良くなればいいのか、それとも経済が良くなればいいのか

張：農民の人の生活が良くなればいいのかという考えです。中国経済はジレンマに陥っている。中国総人口に占める七割以上である農民は巨大な低収入層ですから、農民所得を増加し、消費を伸びることが内需主導経済発展のカギになると思います。

米倉：問題意識のところで資本規制緩和ってのがあってこれは巨大外貨準備解消につながるのか

張：中国が海外に進出する計画が変わった。単純に外国からの輸入を受け入れるということではなくて外国へ行ってするという事です

米倉：海外で中国企業が活動することを促進するという事ですか

張：そうです

米倉：三農問題って低所得のことですか

張：はい、主に農村問題と農業問題と、農村問題です。三つの側面でもまとめると一つの問題になる、農民の所得の問題になる。中心と思うのは農業所得問題だと思う

米倉：解決方法は農業企業の育成、国際競争力のある農業企業の育成なのか

張：そうですね、中国における、農業部門の競争力強化のために、必要なのは、経営規模の拡大と企業経営的農業の普及です。

木谷：中国の食料自給率はいくつ

張：85%くらいと書いてありましたが、詳しくは、また、検討してないです。

木谷：中国はアメリカで恐れられるような農業はできないよね、国内にたくさん人はいるのに海外に売るといふの変なのでは

張：中国の農産物の国際競争力がないから、中国の国内の食料は飽和状態になっているので、農業発展させる政策として輸出で発展するしかないと思います。

木谷：アメリカには農村がなく農業がないといわれる。日本や中国は農業をやっているがアメリカにすんなりそういうところはいってけるのか。日本の例の失敗から日本に習うことはできないのでは

張：まだ研究中でちょっと解決してない状況です

冬木：中国の状況はものすごくいろんな人が研究している。先行研究をまとめて課題を出した方がいい

張：わかりました

冬木：細かい研究から大きな研究まで見渡してください

張：はい、わかりました。ありがとうございました

長谷部：自給動向分析と企業化というのがバラバラ、国際競争力は企業化すればいいのか、自給動向と企業化だけでこの問題は言えるのか

張：私の研究の目的は企業化の普及であって、まだ農業のことは詳しくはわからない、文献など整理しているところです。中国が飽和状態になっているのか自分の力で分析しないとわからない。

長谷部：本当にやりたいのは企業化のことですか

張：これからの計画計画について、まだ絞っていない状況です

